

～ 知ってください 考えてください ～ 土岐市の財政のこと

このコーナーでは、財政の仕組みや本市の実情についてお知らせします。

総務課財政係 内線226・227

第6回

市の支出を性質別に分けて分析してみましょう

①職員などの人件費はどうなっているの？

前回は市民サービスに係る費用を目的別に分類し、本市の傾向を分析してみました。そこで今回からは、性質別に分類し、分析してみましょう（一般会計に特別会計の一部を合計した数値を使用）。

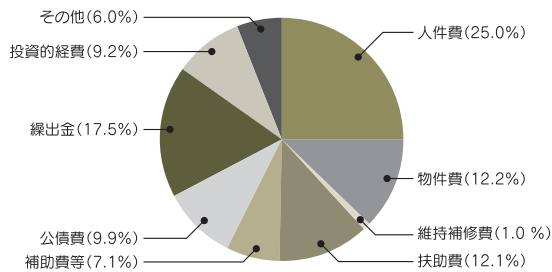
下のグラフ①を見ますと、人件費の割合が最も多いことがわかります。18年度支出総額176億3,000万円のうち、25%（44億600万円）を占めています。

次に、人件費の推移を見てみましょう。グラフ②のように、平成11年度をピークに減少しています。平成18年度は、平成11年度と比較して17.3%（9億2,000万円）減少したことになります。これは、職員数の削減が主な要因です（グラフ③参照）。平成18年4月1日現在では、平成11年4月1日現在と比較して約10.0%（61人）減少しています。また、職員数の削減以外にも、調整手当の廃止や管理職手当の引き下げなどを実施し、人件費の削減に努めてきました。

ちなみに、土岐市の職員数は多いのか少ないのかという視点で分析するために、市民の人口1,000人当たりの職員数を他市と比較しますと、平成18年4月1日現在では土岐市が8.8人に対して、多治見市が6.9人、瑞浪市が8.9人でした。土岐市の特徴としては、給食センター・環境センター（ごみ処理施設）・衛生センター（し尿処理施設）などを直営で運営しているため、このような施設の運営を民間に委託している市町村と比べると、職員数は多くなります（民間に委託している市町村は、人件費は少ないですが委託料などの物件費が多くなります）。

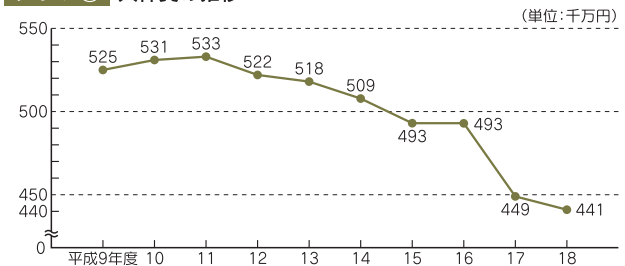
今後の計画として、平成18年3月に土岐市職員定員適正化計画（第3次）を策定し、本年の4月1日現在で544人の職員数を平成22年4月1日には525人にまで削減することを目標としており、今後も人件費の削減に努めるとともに、より効率的で合理的な行政運営を目指しています。

グラフ① 平成18年度に支出した費用の性質別内訳
(総額176億3,000万円)

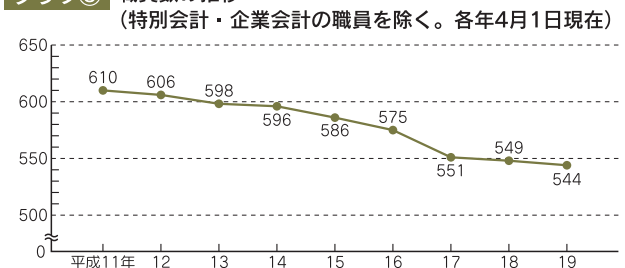


▷人件費＝市の職員や議員などの給与・報酬など ▷物件費＝消費的な性格を持つものの費用。消耗品費・印刷製本費・通信運搬費など
▷維持補修費＝公共施設などを維持するための費用 ▷扶助費＝児童手当・乳幼児医療・生活保護など、社会保障制度の一環として支給される金品の費用
▷補助費等＝市内の団体などへ交付する補助金などの費用
▷公債費＝市債を返済するための費用 ▷繰出金＝下水道事業特別会計や病院事業会計などへ支出する費用
▷投資的経費＝学校建設や道路整備、災害の復旧などのために支出する費用 ▷その他＝積立金、投資および出資金・貸付金

グラフ② 人件費の推移



グラフ③ 職員数の推移



救命講習会の

受講者募集

もし、あなたの目の前で大切な家族や友人・同僚が突然倒れ、呼吸や心臓が止まってしまった場合に、あなたは何かができるのでしょうか。このように、突然の病気や事故に対応できるように、市民普通救命講習会を開催します。

日時 12月9日(日)午前8時45分～正午

場所 市南防災センター

(下石町南消防署内)

定員 30人(先着順)

受講費 無料

申し込み 12月2日(日)

までに、電話で南消防署救

急係へお申し込みください。



詳しくは、南消防署救急係 ☎ 0119(へいふご)。